国際交流基金助成事業報告書

薬学部　６年次生　加茂　明日佳

１．はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、7 月 31 日から 8 月 4 日の間、オーストラリアのブリスベンにある、ショッピングモール内の薬局と、病院の門前薬局を見学させていただきました。

５年次生の実務実習と卒業研究を通して、日本の医療現場についての知識を得ることができた今、日本の医療現場だけでなく、様々な視点で医療を見てみたいという気持ちから今回のオーストラリアへの留学を決めました。

２．Lake kawana PHARMACY にて

Lake kawana PHARMACY は、Lake Kawana Day Surgery Hospital という病院の建物内(写真 1)にある門前薬局で、病院で治療を受けた多くの患者さんが、処方箋を持って来られます。

(写真 1)　Lake Kawana Day Surgery Hospital

薬局には、薬剤師が２名と調剤アシスタント２名がいらっしゃいました。日本の薬局では、調剤した医薬品は、薬剤師が患者に説明をして渡さなければなりませんが、オーストラリアでは、調剤以外の業務に関しては、薬剤師以外が行うことが認められており、薬剤師の人数が削減できるそうです。 また、薬剤師は日本のように白衣を着ずにラフなスタイルで働くそうです。(写真 2)

(写真 2)薬局薬剤師　Chris さんと

オーストラリアでの調剤には、散剤がなく患者に処方箋医薬品を箱ごと処方するために調剤棚には、箱がならんでいました。(写真 3)

(写真 3)調剤棚

日本とオーストラリアには様々な違いがみられましたが、一方で他職種との連携や、患者がかかりつけ薬局を持たないことから、患者の薬歴を一元管理できないという問題があるという点において、日本と同じ苦労があることも分かりました。また、当薬局は病院に併設されていることから、病院の回復室にも一緒に行かせていただくことができ、非常に貴重な経験をすることができました。

３．ホームステイ先にて

オーストラリアでは、ホームステイによる滞在を選びました。なぜならオーストラリアの文化の違いを知ることができたり、より詳しく現地の情報を知ることができると考えたからです。私がホームステイした家族は、70 歳代の夫婦の家で、10 年以上もの間、何度も留学生の受け入れを経験しているお宅でした。ホストファミリーはとてもフレンドリーで親しみやすく、すぐになじむことができました。(写真 4)

(写真 4)ホストファミリーと

４．おわりに

今回、国際交流基金事業の助成によりオーストラリアに留学することができ、様々な貴重な体験をすることができました。私にとって一人で海外に行き、使用する言語や環境が異なる場所で過ごすことは初めての経験でしたが、ホストファミリーの優しさに助けられ、充実した日々を過ごすことができました。

今回の留学で、文化の違いや医療における、国を超えた相違点について知ることができました。英語でコミュニケーションをとり自分の考えを伝えることは、非常に難しかったですが、考えが伝わったときに、自分にとって非常に大きな自信となりました。
これから社会に出る上で、自分の考えをしっかりと持ち、視野を広く持つことで、将来に活かしていきたいと思います。